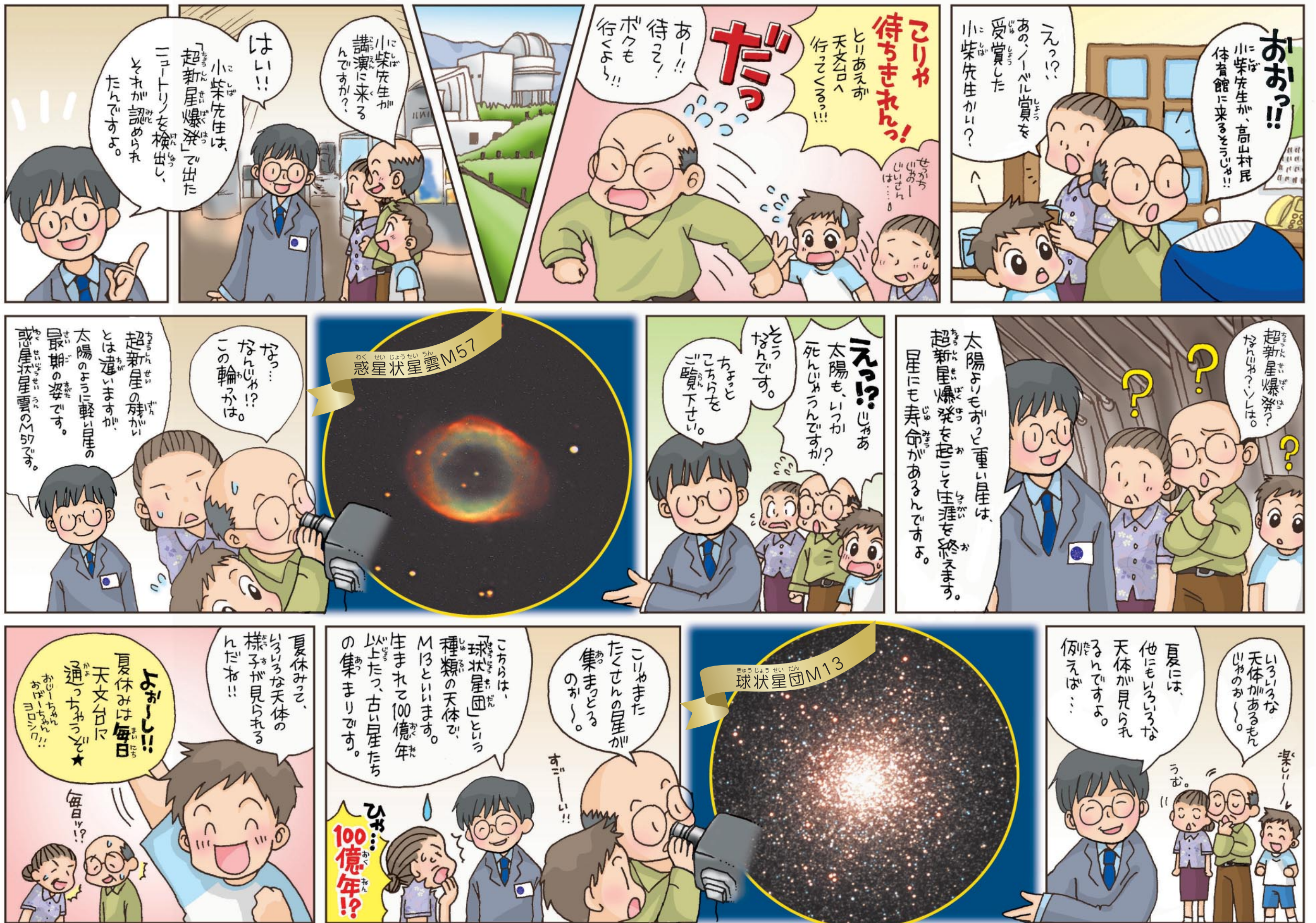


天文台へ行こう!! ~夏の星空が君を待っている~



この夏の話

天文台だより

1 開館5周年記念事業

ノーベル賞を受賞された小柴昌俊博士の講演会等、記念事業を実施します。

小柴昌俊博士講演会

日時 平成16年7月17日(土) 午後1時30分から
場所 高山村民体育館(吾妻郡高山村 高山中学校となり)

天文台5周年記念パネル展示

日時 平成16年7月10日(土)~25日(日) 午前9時~午後5時
場所 県庁31階展示コーナー

2 ペルセウス座流星群観測会

ペルセウス座流星群は、明るい流星が毎年数多く見られます。ぐんま天文台では職員による説明会を行い、その後深夜まで施設を開放して観測会を行います。

期日 平成16年8月12日(木)
時間 説明会/午後6:30~7:20 観測会/午後7:30~翌日午前2:00

3 スタンプラリー景品リニューアル

スタンプラリーやクイズラリーの景品が新しくなりました。美しい天体写真が盛りだくさんの新ポストカードを、君もGet!

※スタンプラリー・クイズラリーは昼間のみです。

開館情報

1 昼の施設見学

開館時間 火~日曜日の午前10時~午後5時

天文台の中が見学できるよ。天文台を探検して大型望遠鏡を見てみようか?

2 夜の天体観望

開館時間 金・土・日・祝日の午後7時~午後10時

いろいろな天体を職員の見守りながら見られるよ。天気が悪いときは中止になります。

3 お盆の特別開館

開館日 8月10日(火)~16日(月)

この期間は休まず開館しています。毎日天体観望ができるよ。

★惑星状星雲
星の最期はその重さによって大きく2つに分けることができます。太陽くらいの星は、外側の層がふくらんでいき、「赤色巨星」になります。その後、外層ガスは星から離れて広がり、中心の核が残ります。この

たとえば太陽程度の小さな星は100億年、太陽の10倍の星なら3000万年の寿命があります。逆に、太陽の半分くらいの星は、宇宙年齢よりも長くなってしまうからです。

星にも誕生と最期があり、その寿命は重いほど短いのです。重く大きい星ほど明るく輝いているので、大量のエネルギーを消費し、燃料を早く使い果してしまうからです。

星の最期

★超新星爆発
太陽の8倍以上の重い星は、劇的な最期を迎えます。中心の核は全体の重さに耐えきれず急激につぶれ、その反動で星の外層が吹き飛んでしまうのです。これが



中心核は「白色わい星」と呼ばれます。また、広がったガスが白色わい星によって照らされて「惑星状星雲」をつくります。この座の「リング星雲M57」や、こぎつね座の「あけい状星雲M27」などがそうです。太陽も約50億年もすればこのような最期を迎えると考えられています。

★質問などはぐんま天文台へ
0279(70)5300
0279(70)5544

星の最期には、いろいろな物質(元素)がつくられ、宇宙空間にばらまかれます。これが次の星や生命が生まれる材料となっていくのです。



「超新星爆発」です。中心の核は「中性子星」や「ブラックホール」になります。おうし座の「かに星雲M1」は1054年に現れた超新星の残骸で、中心には1秒間に30回回転する中性子星があります。